

# わが国初の葬祭業界向け 高機能デジタルサイネージで 業務効率化をサポート

**(株)みづま**

《福岡県川崎町》

http://www.mizuma-com.jp/



多彩なモニターをラインナップ

デジタルデータ通信と液晶ディスプレイなどによって、映像や情報を表示するデジタルサイネージ (Digital Signage = 電子看板) は、新たな広告ツールとして商業施設の屋外看板や店内案内板などに利用されているほか、駅や空港などのインフォメーションボードといったパブリックディスプレイとして使用されるなど、幅広い分野に導入が進んでいる。

葬祭業界もその例外ではなく、効果的な情報伝達手段として会館内にデジタルサイネージを設置している事業者もふえつつある。そうしたなか、遺影額販売や遺影写真加工、会葬礼状作成などを手がける(株)みづま (本社福岡県川崎町、社長廣滝孝行氏) は、葬祭業界向けに特化したデジタルサイネージシステム「my-SIGNAGE」を「フューネラルビジネスフェア2013」に出品。その高い機能性が来場者の高い関心を集めた。



「my-SIGNAGE」専用トラック

## ■ 施行スタッフの役割果たす ■ 最新サイネージシステム

「葬儀を滞りなくとり行なうことが葬祭事業者の本業であり、データ作成や印刷などのいわば“裏方”の業務について、効率よく演出を行なうことができるサービスを提供することが、私どもの使命だと考えております」と同社営業統括本部マネージャー滝口雄大氏。

直葬や家族葬が一般化して葬儀の小規模化が進み、葬儀1件当たりの施行単価が低下するなか、従来の一般葬と同じ人数のスタッフを、そうした小規模葬の施行に当てることはできない。しかし、スタッフ数の減少によりサービスが低下してしまっては元も子もない。my-SIGNAGEは、施行スタッフの役割をモニターが代行することで、手間とコストを削減するデジタルサイネージとして開発された。

その特徴は、これまでのデジタルサイネージシステムが、映像情報を定期的に繰り返し表示することで告知効果を上げる仕組みであるのに対し、my-SIGNAGEは、葬儀の進行に合わせたプレイリストを作成して、表示する情報をス

ケジュール化。図表にあるように、通夜の受付から葬儀・告別式後まで式次第に合わせて、表示する情報を切り替えていくことだ。

これにより葬祭事業者は、開始時刻の案内など、これまで人手で行なっていた情報伝達を、モニターを通じてお客様に伝えることができるようになる。葬家や参列者にとっても、しかるべきタイミングに的確な情報を得ることができる。また、待ち時間などに事前相談や会館案内などを流すこともでき、こうしたサービスの向上が、葬祭事業者のイメージアップにつながる。

事前に設定したスケジュールデータと実際の式の進行状況にずれが発生しても、タブレット端末を使ってリアルタイムで調整することができるほか、万が一、表示する文字の誤りがあっても、タブレット端末で瞬時に修正することができる。これは、各モニター自体がWi-fiを受信し、アプリケーションで自動再生することにより実現したものだ。プレーヤー方式の従来他社のシステムでは、表示内容

図表 コンテンツプレイリスト例



の変更等は事務室などに置かれたPCで行なわなければならなかったが、my-SIGNAGEはタブレット端末を使って現場で臨機応変に対応できる。

参列者が式場の収容人数を上回った場合、待合ロビーなどのモニターに式の映像を流して、式場に入れなかった参列者に対応するケースは多いが、ライブカメラで撮影した映像などをサイネージのシステムに取り込み、サイネージ映像内にカメラ映像を表示するライブ中継機能を有するのも、これまでのサイネージシステムにはないmy-SIGNAGE独自の新機能である。ライブ中継機能を利用して配信したセレモニー映像は、動画としてダウンロードできるので、事業者にとっては、DVDとして提供するなど新たなサービスとして活用することができる。

また、月々の基本料や都度のコンテンツ利用料も、従来他社はモニター1つひとつの価格設定であったが、すべてを包括価格としたのも、リーズナブルに利用してもらいたいことと、仕入れ価格を統一したい葬祭事業者の要望に配慮した形だともいえる。

### 葬祭事業者の“裏方”として ニーズに合ったサービス拡充

モニターの種類は、現在、屋内門標として使用できる縦型モニター、雨でも使用できる防水加工を施した屋外門標仕様の縦型モニタ

一、葬儀の場面に応じて遺影やスライドショーを流す縦型の祭壇用モニター、エントランスやロビーの案内板やメモリアルコーナーの演出の一環として活用できる横型モニターとイーゼルタイプの縦型モニター、横型と縦型の2画面を搭載するダブルモニター、焼香台や遺族控室、受付の案内等に活用できる縦横対応の小型モニターをラインナップ。フェアで展示して来場者の目を引いた横型84インチの大型モニターも引き合いがあり、特需品として受注生産で対応していく。

my-SIGNAGE導入の契約からサービス開始までの期間は約1か月。「単にモニターを設置するのではなく、どのような式の進行を行なうのか、参列者の動線はどのようなルートなのか、葬儀プランごとにコンテンツを変えるのかなど、各社の状況に合わせた最適なコンテンツの作成を行なっています。これが私のサイネージ=my-SIGNAGEという名前の由来にもなっています。また、実際にホールにモニターを置いて、具体的なイメージをつかんでもらおうとトラックを購入して、営業マンが全国をデモンストレーションで回っております。いくら展示会で実機を見ても、実際に置くと想像と違う場合がありますから。すべてご納得のうえで導入をさせていただいております」(滝口氏)と、このシステムに対する取組みの姿勢

がうかがえる。

これまでに契約を結んだ葬祭事業者には、順次導入が進んでいる。1社当たりの導入台数は平均約5台。門標タイプと祭壇モニターが基本で、それに加えて横型モニターやイーゼルタイプ、小型モニターなどの組合せが多いようだ。

my-SIGNAGEの導入を機に式の進行「そのもの」を見直す葬祭事業者も少なくないという。これは、いままでの固定観念にとらわれて、式をとり行なっていたが、葬家主体の考えに改めるなど、いわゆる式典屋から人間味のある葬儀を行なう、本来の形の表われが、みづまの企業理念である「人間愛」にもつながる結果だともいえる。

みづまでは、my-SIGNAGEを遺影額・遺影写真・会葬礼状の3本柱に続く4本目の柱となる新事業と位置づけており、来期目標として2,000台の導入を設定している。また、タブレット端末での受注システムの開発にも取り組んでいくほか、今年7月から展開を開始したカード決済モバイル端末をはじめとする葬祭業務全般に関わるサービスの提供を進めるなど、引き続き、葬祭事業者のニーズに対応したサービスの拡充を図っていきとしており、今後も新たな動向から目が離せない。

#### ■会社概要

所在地／福岡県田川郡川崎町大字池尻403-1  
連絡先／0947-46-8422  
設立／1998年4月  
代表者／廣滝孝行